



# 小島友実の あの馬の STORY

## フロリアヌス



まだ幼さを感じさせる表情のフロリアヌス。飼葉をたくさん食べようね

「今回のお役は武藤善則厩舎に所属するフロリアヌスが初めて武藤厩舎へ入厩。ユースから着。そして、戦目は10月の東京競馬場で走り4着と、初勝利もおどり歩みを進めてます。」

「フロリアヌスが初めて武藤厩舎へ入厩したのは今年の8月2日。その約1カ月後の8月10日には福島で初戦を迎えたのですが、デビューまでの流れがスムーズだった事がわかりますね。

「ゲート試験は一回目で優かつたんですね。社台ファームでしっかりと練習しててくれたんだなと感謝しましたね。普段から無駄な事をしない賢い馬なので、そういった部分も良い方向に向かったのでしょ。調教では、大きくてダイナミックな走つきを示すという印象。マイルから1800mが向こうへ向かうタイプだから、福島の1800mで『いい』の一戦でした」と。レース前、雅(武藤雅騎手)には「テレビが大きい分、段々エントジンがかかる悪鳴」の気をつけていたと話す。

武藤師が見つめる中で迎えたデビュー戦。スタートはおひくつめで、中団からのレースとなりました。

「流れに乗つて、なんとか順調に見ていました。4コーナーで他馬が膨れるアクシデントがあつたけど、フロリアヌスはその影響を受けずに内を回り、直線は外から伸びて着。最後の伸び脚が実際に良かつたですね。新潟の外回りとが、直線の長いコースだったのに面白しながら感じました。」

まだ幼さを感じさせる表情のフロリアヌス。飼葉をたくさん食べようね

「馬元も全く気にならない状況にしてもらえて、馬体もふっくらとして470kg位で帰厩しました。新馬戦の前に比べた貪欲をかけられた感じで力もついてきて良くなっています。ただ、馬は調教が進んでいくごとに段々と飼葉食いが細くなっています。2戦目はフロス2歳の455.6kgだった感じです。10kgは増えすぎかなと思ったんですけどね。」

レース前にゲート練習を行った効果もあって、戦目は初戦と異なり好スタート。しかしも外の馬が行く氣を見せず、フロリアヌスが逃げる形となりました。馬元も驚いた。「脚不行かないんだもんね(苦笑)。本当に番手位のインが理想だった。ただ内枠だったので、これが競馬の怖いところ。1000m通過が1分1秒6だからハイペースではなく、隣の馬からアシジッシャーをかけられて力んで走ついた分、体力を消耗したね。それでいて4着に踏ん張ったのが分かりよく頑張りましたよ。能力がある感じましたね」

レース後の10月11日、美浦で調整していながらフロリアヌスは会って行きました。担当するのは渡部博行厩務員です。「バーデックでもありました。馬房で大人しい馬ですよ。改善してほしいところですか? それは飼葉食いであります。馬」「ほんとうが悪くなっていますね」

内密でした

「馬葉に聞けば、武藤師もいつ語ります。」

「今の課題はとにかく飼葉。むろん食べてくれれば、攻め馬を強化できるんですけどね。馬体の幅も手脚も長くタイプなので、470kg台位には不适合です。」

「この体重増加作戦には、なかなか浮かんでしまいます。現在、厩舎改修工事が進んでいます。今年春に12の厩舎が北の杜エリアに移動しその内、希望した7厩舎にウォーキングランが設置。武藤厩舎にも導入されたのです。」

「これがはつオーキングランは朝の調教前の使用がメインでしたが、涼しくなると午後運動でも使つてみるとかなり考えております。やべりのペースで運動する事で、小腹がすいて飼葉食いに繋がるなど、やなこか思つてね。勝ち上がりやすくなるに最善をつくします。」

「戦目のレースの後も体調に問題はない出走が予定されているフロリアヌス。最後の馬への期待を伺いました。」

「走るオームが綺麗で気持ちも前向き。ボディシヤルは高くまだまだ変わらぬ地のある馬ですよ。フロスが上がつても堅く走れるタイプだし思いますが、応援する所にお願いします。」

この会報誌が会員の皆さんの元へ届く頃には、3戦目の結果が出ていたタイミングで、朗報が届く事を期待します。

(取材日:10月11日)

**profile**

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。